

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

平成30年6月

沼津工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校
2. 所在地	静岡県沼津市大岡3600
3. 学科等の構成	<p>準学士課程：機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科 制御情報工学科 物質工学科</p> <p>専攻科課程：総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース 新機能材料工学コース 医療福祉機器開発工学コース）</p>
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	<p>特例適用専攻科（専攻名：総合システム工学専攻）</p> <p>J A B E E 認定プログラム（専攻名：総合システム工学プログラム）</p> <p>その他（ ）</p>
5. 学生数及び教員数 (評価実施年度の5月1日現在)	学生数：1111人 教員数：専任教員78人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、産業界からの技術者養成に対する強い要望に応えるため、昭和37年4月に高等専門学校の一期校として2学科（機械工学科、電気工学科）で創設された。以後、時代の要請に伴い、昭和41年に工業化学科を設置、昭和61年に電子制御工学科を設置、平成元年に工業化学科を物質工学科に改組、平成4年に機械工学科の1学級を制御情報工学科に改組、平成8年に専攻科（3専攻）を設置、平成11年に電気工学科を電気電子工学科に名称変更し、準学士課程5学科、平成26年度には専攻科課程を3コースに改編し、現在に至っている。</p> <p>本校では、創設以来、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」との教育理念の下、静岡県東部地区唯一の国立高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成することを目的に教育を行っている。</p> <p>この教育理念や目的に基づき、(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うとともに、(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者、(3)実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者、(4)教員の活発な研究活動を背景にした創造的技術者の養成を教育方針に掲げ、「進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と質の高い専門の工業技術の知識を身に付け、新たな発想の下に、技術革新を担うことができ、企業から信頼される指導的な実践的技術者の養成」を実践してきた。</p> <p>教育課程の特徴は次の通りである。準学士課程においては、低学年では一般科目を多く配置し、高学年になるにつれて専門科目を多く配置する楔形カリキュラムを編成し、実験・実習及び情報技術を重視した5年間一貫の体験的早期専門教育を実施している。また、専攻科課程においては、準学士課程の教育成果を基礎として、さらに高度な知識と技術の修得を目指しており、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備え、地域社会の産業と文化の進展に寄与する技術者を育成するために、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行っている。</p> <p>産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者を養成するために、平成16年度に設置された地域共同テクノセンターを核として、地域企業との共同研究・受託研究が活発に行われている。平成29年度には地域創生テクノセンターと改称するとともに、国立高等専門学校機構支援事業「“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ」で採択された「未来創造ラボラトリー」（インキュベーションルーム）を設置し、より地域企業と密着した教育・研究を目指している。</p> <p>平成21年度に静岡県東部地域の産業振興への寄与を目的とした文部科学省科学技術振興調整費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」（通称F－m e t）が採択され、以来地域との共同教育による医用機器開発エンジニア養成の中核を担ってきた。平成24年に静岡県東部地域が国から「ふじのくに先端医療総合特区」に認定されたことに伴い、平成25年にはF－m e t 事業が「医療機器総括製造販売責任者及び責任技術者に対する認定講習」に認定され、さらに平成27年には文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」にも認定された。既に9期生が修了し、修了生は延べ78人となっている。プログラム修了生の有志によりF－m e t＋という組織がつくられていて、医用機器開発に関する情報交換、勉強会、ものづくりなどの活動を進めており、活動を通して医用機器の製品化の実績を挙げ</p>	

るなど、沼津高専は地域の医用機器開発産業振興の核として根付いている。

平成 27 年度には文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に、静岡大学が提案し採択されたプログラム「静大発“ふじのくに”創生プラン」に参画し、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの開発と実践に取り組んでいる。

知財教育も推進しており、平成 29 年度パテントコンテストで学生が「優秀賞」を受賞するとともに、学校としても「パテントコンテスト/デザインパテントコンテスト 文部科学省科学技術・学術政策局長賞」を受賞した。「“KOSEN（高専）4.0” イニシアティブ」では学内の国際化を目指して、「学内留学を中心としたキャンパス国際化」事業を通してできるだけ多くの学生が留学生・異文化に接することを目指している。

以上の通り、本校では地域産業との連携を取りつつ、社会の要請に応えながら、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成のための教育を実践している。

## II 目的

### 沼津工業高等専門学校の使命

本校は「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」を教育理念として掲げ、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた社会から信頼される、指導力ある実践的技術者を養成し、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として地域の文化と産業の進展に寄与し、ひいては日本の産業界に貢献する有為な人材を世に送り出すことを使命とする。(沼津工業高等専門学校学則 第1章本校の目的第1条)

### 教育研究活動の目的、方針、学習・教育目標、養成すべき人材像

#### 1. 教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

#### 2. 教育方針

- (1) 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- (2) コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- (3) 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- (4) 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

#### 3. 学習・教育目標

本校は、学習・教育目標として、学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- (1) 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- (2) 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- (3) 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- (4) 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- (5) 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

#### 4. 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

### 学科・専攻科等ごとの目的、目標

上記の教育目的、学習・教育目標は準学士課程共通であり、さらに専門学科、教養科ごとの目的は以下のものである。専攻科では、上記の教育目的、学習・教育目標を基本として、より具体化した教育目的を設定している。

#### 1. 準学士課程

##### (1) 機械工学科

機械の開発・設計・製造・評価・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

##### (2) 電気電子工学科

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

##### (3) 電子制御工学科

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

##### (4) 制御情報工学科

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

##### (5) 物質工学科

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

##### (6) 教養科

専門学科の教科を学ぶために必要な基礎学力を身に付けさせ、技術者としてのみならず社会人としての幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

(沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則)

## 2. 専攻科課程 (総合システム工学専攻)

高等専門学校の教育における成果を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

この目的を実現するため、本校の学習・教育目標を基礎におき、より具体化した高い学習・教育目標を以下のように設けている。

(1) 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

(2) 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

(3) 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

(4) コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力

(5) 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

専攻科には3コースが設置されていて、コースごとの目的は以下のとおりである。

### (1) 環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

### (2) 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学分野を支える基盤材料として、鉄鋼・非鉄・セラミック材料、生物材料などを包括して学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

### (3) 医療福祉機器開発工学コース

機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

(沼津工業高等専門学校学則第9章専攻科第45条)

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<b>評価の視点</b>	
A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	
観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(設)第2条第2項
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料A-1-①-(1)-1 (p.A-1) 「研究活動に関する目的・基本方針・目標等を定めた規則等」
観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	
【留意点】	
○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。	
○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。	
○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。	
関係法令	(設)第2条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 資料A-1-②-(1)-1 (p.A-2~3) 「研究活動の目的等を達成するための実施体制に関する規則」 資料A-1-②-(1)-2 (p.A-4~6) 「沼津工業高等専門学校組織（組織図、役職員、現員）」
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 資料A-1-②-(2)-1 (p.A-7~8) 「設備等を含む研究体制の整備に関する資料：教育研究支援センター」 資料A-1-②-(2)-2 (p.A-9~14) 「設備等を含む研究体制の整備に関する資料：地域創生テク

	ノセンター」
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(3)-1 (p.A-15~16) 「支援体制の整備に関する資料：教育研究支援センター」 資料 A-1-②-(3)-2 (p.A-17~19) 「支援体制の整備に関する資料：地域創生テクノセンター」 資料 A-1-②-(3)-3 (p.A-20~26) 「支援体制の整備に関する資料：事務局」 資料 A-1-②-(3)-4 (p.A-27~28) 「支援体制の整備に関する資料：技術室」 資料 A-1-②-(3)-5 (p.A-29~30) 「支援体制の整備に関する資料：地域連携・研究支援委員会」</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(4)-1 (p.A-31~34) 「研究活動の実績」</p>
<p>観点 A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</li> <li>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている □得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>資料 A-1-③-(1)-1 (p.A-35~38) 「研究活動の目的に沿った成果に関する資料」</p>
<p>観点 A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。</li> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p>	

□満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>資料A-1-④-(1)-1 (p.A-39~42) 「地域連携・研究支援委員会議事要録（抜粋）」</p> <p>資料A-1-④-(1)-2 (p.A-43~44) 「校長面談に関する資料」</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p>
<p><b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>平成29年度に地域創生テクノセンター内に研究開発用のインキュベートルーム「未来創造ラボラトリー」が設置された。これは地元企業と共同して学内において学生のインターンシップ活動等を行い、企業が専用スペースにおいて研究開発成果を創出することで、共同研究と産学協働教育を行うものであり、今後の研究活動の活性化が期待できる（資料A-1-特記事項-1 (p.A-45)「未来創造ラボラトリー」を参照）。</p>	

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断
<p>□目的の達成状況が非常に優れている</p> <p>■目的の達成状況が良好である</p> <p>□目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p>□目的の達成状況が不十分である</p>

**選択的評価事項A**

優れた点
<p>教員の研究活動は活発に行われ、その成果は学生への授業や研究指導などの教育面に還元されており、学生のような受賞や外部資金獲得にもつながっている。また、施設整備及び組織運営の両面からの教員の研究活動への支援は、地域創生テクノセンターおよび地域連携研究支援委員会を中心として体制が整備されている。さらに、共同研究と産学協同教育を目的としたインキュベートルームが地域創生テクノセンター内に設置されるなど、教育研究活動を積極的に推進するための体制整備が十分に行われており、優れている。また、平成29年には教員・技術職員の研究業績を自由に閲覧できるデータベースを構築し、年度ごとに整理・記載するように改善した。</p>
改善を要する点
<p>該当なし。</p>



**選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況**

<p><b>評価の視点</b></p> <p><b>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</b></p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料B-1-①-(1)-1 (p.B-1)</p> <p>「沼津工業高等専門学校の地域貢献活動に関する目的、基本方針及び目標等を定めた資料」</p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>資料B-1-①-(1)-1 (p.B-1)</p> <p>「沼津工業高等専門学校の地域貢献活動に関する目的、基本方針及び目標等を定めた資料」</p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>1. 公開講座</p> <p>資料B-1-②-(2)-1 (p.B-2)</p> <p>「公開講座の情報を掲載したホームページ」</p> <p>資料B-1-②-(2)-2 (p.B-3)</p> <p>「受講者募集のためのポスターと送付先一覧」</p> <p>資料B-1-②-(2)-3 (p.B-4~5)</p> <p>「受講者募集のため地域の広報紙や新聞等に掲載された記事など」</p> <p>2. 出前授業</p> <p>資料B-1-②-(2)-4 (p.B-6)</p>

	<p>「出前授業の情報を掲載したホームページ」 資料B-1-②-(2)-5 (p.B-7~15) 「過去3年分の出前授業の一覧表」</p> <p>3. 特別課程 資料B-1-②-(2)-6 (p.B-16) 「募集内容や講義について掲載したホームページ」 資料B-1-②-(2)-7 (p.B-17~29) 「募集に関連する資料や送付先一覧など一式」</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p><b>【留意点】</b> ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 ■認められる □認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）</p> <p>1. 公開講座 資料B-1-③-(1)-1 (p.B-30~34) 「公開講座開講一覧と充足率一覧資料」 資料B-1-③-(1)-2 (p.B-35~38) 「公開講座のアンケート結果（抜粋）」 資料B-1-③-(1)-3 (p.B-39~40) 「公開講座の風景写真と修了証書の例」</p> <p>2. 出前授業 資料B-1-③-(1)-4 (p.B-41~42) 「実施された出前授業一覧と参加者数」 資料B-1-③-(1)-5 (p.B-43~47) 「出前授業のアンケート結果（抜粋）」</p> <p>3. 特別課程 資料B-1-③-(1)-6 (p.B-48~50) 「受講生名簿と修了者名簿と出席率および成績」 資料B-1-③-(1)-7 (p.B-51~53) 「受講者のアンケート結果」 資料B-1-③-(1)-8 (p.B-54~62) 「特別課程修了証書、新聞記事、認定講習など活動成果の資料」</p>

<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点B-1-③で把握した結果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>1. 公開講座</p> <p>資料B-1-④-(1)-1 (p.B-63~64) 「運営と改善を行う地域連携研究支援委員会組織」</p> <p>資料B-1-④-(1)-2 (p.B-65~70) 「改善に係わる委員会による審議の議事録および実施計画と実施報告書」</p> <p>資料B-1-④-(1)-3 (p.B-71~73) 「教員個人による公開講座の改善例」</p> <p>2. 出前授業</p> <p>資料B-1-④-(1)-4 (p.B-74~75) 「運営と改善を行う委員会組織」</p> <p>資料B-1-④-(1)-5 (p.B-76~78) 「教員個人による出前授業の改善例」</p> <p>3. 特別課程</p> <p>資料B-1-④-(1)-6 (p.B-79~84) 「運営・改善を行う特別課程運営会議および運営委員会組織とそれぞれの規則」</p> <p>資料B-1-④-(1)-7 (p.B-85~90) 「改善に係わる運営室および運営委員会議事録」</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>1. 資料B-1-④-(1)-3 (p.B-71~73) 「教員個人による公開講座の改善例」に示すように、公開講座終了後、受講者のアンケートを実施しており、「PLCを用いたサーボ制御」では前年度の公開講座受講生から、より基礎的なPLC講座の開講を希望する声があり、翌年度の実施内容に意見を反映させた。同じ内容の5年生授業と公開講座での経験を、相互に役立てる努力をしている。</p> <p>2. 出前授業は概ね好評であり、内容の大きな改善は行われていないが、資料B-1-④-(1)-5 (p.B-76~78) 「教員個人による出前授業の改善例」に示すように、</p>

	<p>出前授業で中学生と接した経験が学校に戻って低学年教育において役立っている。</p> <p>3. 資料B-1-④-(1)-7 (p.B-85~90)</p> <p>「改善に係わる運営室および運営委員会議事録」に示すように、特別課程運営委員会において、講師や見学先などを、講義内容に合わせるなどの改善を行っている。</p> <p>以上のように、「生涯教育の推進や技術者のスキルアップ等に資する学習機会の提供と科学技術への啓蒙」という目的に沿うように改善が行われている。</p>
--	---

<b>B-1 特記事項</b>	<p>この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>
	<p>地域貢献活動として「公開講座」、「出前授業」、「特別課程」を対象とし、本校の学生以外の物に対して生涯教育の推進やスキルアップの機会の提供を目的としている。しかし、これらの地域貢献活動を通して、目的以外の成果が得られている。</p> <p>1. 公開講座や出前授業が学内の教育、研究、入学者確保に繋がっている</p> <p>(1)公開講座の開講が地域貢献活動のみならず、学内の教育の改善に反映されている。</p> <p>(2)公開講座の開講が地域貢献活動のみならず、教員の研究活動に反映されている。</p> <p>(3)公開講座の開講が地域貢献活動のみならず、教員の地域連携活動に反映されている。</p> <p>(4)公開講座を受講した中学生が多く受験し、また入学している。</p> <p>2. 特別課程はスキルアップではなく資格修得やファルマバレープロジェクトに繋がっている</p> <p>(1)特別課程修了生が医療機器開発集団 (F-met+)を立ち上げ活躍している。</p> <p>(2)特別課程が静岡県の認定講習として認められている。</p> <p>(3)特別課程が文科省の職業実践力養成プログラム (BP) に認定されている。</p>

<b>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</b>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

<b>選択的評価事項B</b>
<b>優れた点</b>
<p>地域貢献活動として「公開講座」「出前授業」「特別課程」を実施している。さらに、これらの活動が、沼津高専の地域貢献はもとより、入学者の確保、そして学内の教育や教員の研究の活性化、地域連携推進につなげている。</p>
<b>改善を要する点</b>
<p>該当なし。</p>